



地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 28 (2022年9月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271

爽秋の候、ご皆様におかれましてはCOVID-19第7波の対応でお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。さて、この度 地域連携室便り No. 28 9月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いたします。

今回の内容

- ① かかりつけ医の推進掲示について・・・・・・・・・・・・・・・・三好旭
- ② ブレインハートチームのご紹介・・・・・・・・・・・・・・・・日浅豪
- ③ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科紹介・・・・・・・・小川日出夫
- ④ 第117回 医療連携懇話会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・中西徳彦
- ⑤ 改善コラム Part 6・・・・・・・・・・・・・・・・原田雅光
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

かかりつけ医の推進掲示について

地域医療連携室 三好 旭

平素は当院の地域医療連携業務にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

当院では、地域医療支援病院として患者さんへ、普段から頼りにできる身近な「かかりつけ医」を持つことを推進しております。

今回はかかりつけ医推進の取り組みについて、院内の掲示物・配布物をご紹介します。図1は主に外来受付で掲示しているポスターです。受付以外にも診察室や待合室へ掲示し、来院される患者さんへかかりつけ医を持つことを呼びかけております。入院される患者さんへは、図2の資料を入院のしおりと共にお渡ししております。また、一部診療科では症状の安定してきた外来患者さんへ図3の資料をお渡ししております。図2と図3では、かかりつけ医と当院での役割分担についてご説明し、スムーズな逆紹介につながればと考えております。

近年は新型コロナウイルス感染症対応により地域医療機関の先生方にも多大なご迷惑をおかけしておりますが、これからも連携して地域医療を支えていくことができればと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

図1



外来掲示板用

図2



入院時にお渡しする資料

図3



一部診療科外来で患者さんにお渡しする資料

② ブレインハートチームのご紹介

循環器内科 主任部長 日浅 豪

愛媛県立中央病院では、患者さん一人一人に最適な治療を提供するため、医師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士などの多職種による「チーム医療」を多数行っています。近年、心臓に原因のある脳卒中の予防治療がカテーテルを用いて行えるようになり、心臓病や脳卒中を専門とする医師が「ブレインハートチーム」を結成し、診療をスタートさせました。

脳卒中は健康寿命を大きく損ねる深刻な疾患です。その重要な病型である「心房細動による心原性脳塞栓症」および「奇異性脳塞栓」に対してカテーテル治療による予防が可能となりました。いずれの治療も当院が県下唯一の治療認定施設となっています。

1. 心房細動による心原性脳塞栓

心房細動による脳梗塞はノックアウト型とも表現されるように、生命予後・神経学的予後の極めて悪い疾患です。予防のためにはワルファリンやDOACなどの抗凝固薬を生涯服用することが推奨されていますが、内服しても脳梗塞を発症してしまう患者さんや、抗凝固薬の副作用である出血性合併症のリスクが高い患者さんに対するより有効で安全な治療法が待ち望まれていました。心房細動により生じる血栓の約9割は左心耳の中にできると言われており、左心耳を閉鎖することにより心房細動による心原性脳塞栓の大部分は予防できると考えられます。

本邦で保険償還されたWATCHMAN（ウォッチマン：「番人」の意味）デバイスは左心耳を閉鎖する器具で、大腿静脈から挿入したカテーテルを通して左心耳に留置されます。脳梗塞のリスクを抗凝固療法並みに低減させながら、抗凝固薬の服用を中止することが可能となり、大規模臨床試験ではワルファリンと比較して生命予後の改善効果や出血イベント抑制効果が示されています。CHADS2スコアが高く（概ね2点以上）、抗凝固療法が推奨される患者さんで、抗凝固療法を長期間実施できない医学的に妥当な理由を有する（概ねHAS-BLEDスコア3点以上等）場合、具体例を挙げれば、抗凝固療法中の心房細動患者さんで消化管出血や頭蓋内出血を来したり、転倒を繰り返す患者さんなどがよい適応となります。



2. 奇異性脳塞栓

卵円孔は心房中隔の中央に組織が重なり合うようにできた穴で、胎生期に胎盤を通して流れてくる酵素を含んだ血液を胎児の全身に循環させるためにあります。通常、卵円孔は出生後数カ月以内に自然に閉鎖しますが、成長しても閉じずに残っている場合があります、この状態を「卵円孔開存」(PFO: Patent Foramen Ovale)といいます。多くの場合は無害で症状もなく、治療の対象にはなりません。下肢の静脈などに形成された血栓が卵円孔を通じて左心系(体循環系)に至り、脳梗塞などの重篤な病気を発症することがあり、「奇異性脳塞栓症」と呼ばれています。成人の4人に1人はPFOがあるとも言われており、高頻度に認められるためにPFOが脳梗塞の原因か否かを正確に診断することが極めて重要となります。バブルテストを用いた経胸壁エコー検査は外来で施行可能な簡便、低侵襲なスクリーニング法であり、当院では積極的に行っています。

従来、奇異性脳塞栓症に対しては抗血栓薬による薬物療法が行われてきましたが、薬を長期間服用する必要があり、出血性合併症が懸念されます。近年、PFOに対するカテーテル治療が薬物治療よりも脳梗塞の再発予防効果の高いことが示され、本邦でも治療が可能となりました。PFOオクローダーという専用のデバイスを使いPFOを閉鎖することで右心房と左心房の血流を止め、脳梗塞や全身の血栓塞栓症の再発を予防します。

以上、当院で可能となった脳梗塞予防のためのカテーテル治療についてご紹介いたしました。愛媛県の脳卒中患者さんの予後改善を目指し、ブレインハートチーム一丸となって努めて参ります。気になる患者さんがいらっしゃったら、循環器内科または脳神経内科・脳神経外科までお気軽にお問合せください。



③ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科紹介

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 小川 日出夫

みなさんは、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と聞くとどのような仕事をしているイメージがありますか？

一般的には耳鼻咽喉科・頭頸部外科と聞くと、common diseaseである鼻・副鼻腔炎、中耳炎、上気道炎等の診療がメインであるイメージがあると思います。私も実際に耳鼻咽喉科・頭頸部外科医になるまではそのように考えていました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は多彩な疾患、臓器を扱う診療科です。

生活の質 (quality of life) に直接影響し、人間が人間らしく生きる上でもっとも基本的かつ重要な「感覚」と「運動」の機能を取り扱っています。聴覚（聴く）、嗅覚（匂いを嗅ぐ）、味覚（味わう）、平衡覚（自分の足で歩くためのバランス感覚）などの感覚機能、そして、美味しいものを噛んで飲み込む嚥下・咀嚼機能や家族や友人と会話を楽しむための音声・言語機能を専門としています。また、耳鼻咽喉科・頭頸部外科では生命に関わる悪性疾患の診断・治療から機能改善手術まで幅広く扱います。さらに手術を行う外科系の診療だけではなく、複雑な病態・疾患の診断や治療を行う内科系の診療も行います。取り扱う年齢層も新生児から高齢者まで全年齢が対象となります。取り扱う臓器も多岐にわたり、首から上で脳神経内科や脳神経外科が担当する脳と脊髄、眼科が担当する眼球を除く頭部および頸部の広範囲にわたる領域を担当しています。中耳・内耳・鼻・副鼻腔・口腔・咽頭・喉頭・唾液腺・気管・食道など多くの臓器がその対象となります。耳鼻咽喉科・頭頸部外科は感覚器のエキスパートとして、また人間にとって重要な機能を取り扱う診療科として、生活の質の向上のために専門的な診療を提供しています。

耳科手術においては、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳小骨奇形等の中耳疾患に対して、以前より耳後皮膚切開による顕微鏡下耳科手術が行われていますが、近年、手術用内視鏡に付随するビデオシステムの高精細 (high definition : HD) 化に伴い、すべての手術操作を細径内視鏡を用いて外耳道から行う経外耳道的内視鏡下耳科手術 (transcanal endoscopic ear surgery : TEES) が国内外で普及してきています。TEESは、広角な視野を持つ内視鏡を自在に対象へと接近、拡大させることで、死角の少ない明瞭な術野を得ることができます。耳後皮膚切開や広範囲の外耳道剥離が不要であり、また最小限の骨削開で手術が可能であるため、低侵襲、手術時間の短縮が可能な手術です。当科では、2019年からこのTEESを導入している愛媛県、四国でも有数の病院であり、患者さんの術後疼痛軽減、早期の日常生活への復帰に寄与しています。

コロナウイルス禍の現在、上気道疾患を扱う耳鼻咽喉科・頭頸部外科は大きな影響を受けた診療科のひとつです。このような逆風の中でも柔軟に対応し、日々の診療や患者さんの生活の質の向上に努めていきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願いたします。

④第117回 医療連携懇話会の報告

副院長 中西 徳彦

がん治療センターでは地域がん診療連携拠点病院として年に数回症例検討会を行ってまいりました。ここ2年間はコロナ禍のために開催できていませんでしたが、このほど3年ぶりとなる本会を8月10日当院講堂において、がん治療センター症例検討会を兼ねた医療連携懇話会を開催することができました。

今回は肺癌で当院での積極的治療を受けた後、在宅療養に移行し訪問診療の先生方に看取っていただいた方をとりあげました。

まず当院の主治医 森高智典がん治療センター長は初診から在宅療養に至るまでの経過、続いて病棟の島内智子看護師は入院中の意思決定におけるかかわり、当院地域医療連携室の小笠原佑記MSWは在宅療養への連携の実際を話しました。また、いろはホームケアクリニック 飯森俊介先生とあおぞらの里 森松ケアプランセンター永井幸子様は、患者様の在宅での様子とACP(Advanced care planning: 人生会議)のあり方、最後の看取りについて話していただきました。

病診連携では患者を中心に、病院側の医療スタッフ、在宅療養にかかわる医療スタッフ、その橋渡しとなるスタッフがよく出てきますが、我々病院側からの視点ではその半円しか見えてないこととなります。今回の症例検討会を通して、在宅での患者、家族の顔が垣間見えた有意義な会でした。

本症例検討会では、地域の医療機関や在宅療養支援診療所などの医療・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援などについて検討することを目的にしています。今後も開催予定ですので、皆様にも積極的に参加していただきたいと思っております。



5 「改善コラム Part 6」 副院長・改善推進本部長 原田 雅光

～ QC的ものの見方、考え方 (6. 事実に基づく管理：Fact Control) ～

Quality Control(QC：質管理)には、基本的な考え方が求められます。Key wordは、1. 顧客(患者)指向、2. 質優先、3. 後工程はお客様、4. PDCAサイクルを回し続ける、5. プロセス重視、6. 事実に基づく管理、7. 重点指向、8. 人間性の尊重、などです。この“質”改善活動が科学的根拠を重視するのは、6. 事実に基づく管理、だからです。KKD「経験」、「勘」、「度胸」もちろん重要ですが、5ゲン主義(現場、現物、現実、原理、原則)に基づいた事実(データ)であれば、誰がやっても、何所であっても、体調が悪くても、急がされても、・・・、ほぼ安定した判断や行動が可能になります。

6 地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ(医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど)はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



<件名>メール登録(医療機関名) <本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で...

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ

愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>濱田・三好



TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第119回医療連携懇話会のお知らせ

令和4年 10月12日(水) 19:00~20:00

テーマ **ブレインハートチームで脳卒中に挑む！**

座長 循環器内科 主任部長 日浅 豪

演題 ・ESUSについて～奇異性脳塞栓症の話題を中心に～

脳神経内科 主任部長 岡本 憲省

・脳梗塞予防のための新たなカテーテル治療
：WATCHMANとPFO閉鎖術のご紹介

循環器内科 主任部長 日浅 豪

・急性期脳梗塞に対する血栓回収療法～最近のトピック～
脳神経外科 部長 古川 浩次

・身体活動と循環器疾患(心疾患・脳卒中)～予防疫学の知見から～
リハビリテーション部 理学療法士 渡部 潤一

<リンク先>

愛媛県立中央病院ホームページ

お申込・詳細はコチラから Click!



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

<現在閲覧できる項目>

・処方・注射・検体検査・病名

・画像(放射線、エコー、生理検査)

・循環器動画・放射線画像診断レポート

(2021年11月1日以降の情報) (2022年3月1日以降の情報)

閲覧
無料

閲覧項目
随時追加予定

<リンク先>
愛媛県立中央病院ホームページ

詳しくはコチラから Click!



地域連携室便り

次回10月号(No.29)は
10月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！